

2016 本巡航

8月9日(火)～8月18日(木)



神戸大学男子端艇部

本巡航に行くにあたって

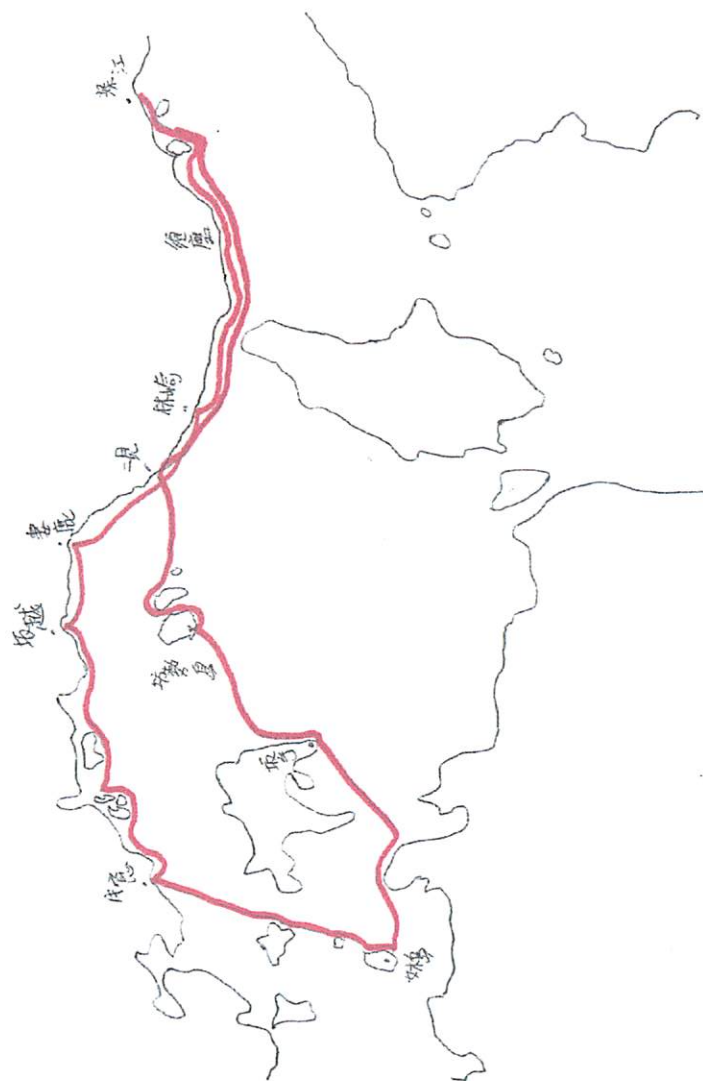
本巡航の日がやってきた。10日間という今まで経験したことのないような比較的長い期間となる。みんな不安でいっぱいだろうが男子端艇部の仲間と協力して乗り越えよう。さて、今回の目的地は香川県高松市の北方に位置する女木島だ。ここには鬼ヶ島伝説やモアイ像がある。実際に目で見て確かめよう。いざ、女木島へ出発だ！

神戸大学男子端艇部 巡航委員会

1407121w 時田孝也

1427058w 川口哲

1457048w 小野拓真



1. Navigation Schedule

1.1	8/9	深江～林崎	5
1.2	8/10	林崎～妻鹿	6
1.3	8/11	妻鹿～坂越	6
1.4	8/12	坂越～牛窓	7
1.5	8/13	牛窓～女木島	8
1.6	8/14	女木島バカンス	8
1.7	8/15	女木島～坂手	9
1.8	8/16	坂手～坊勢島	9
1.9	8/17	坊勢島～二見	10
1.10	8/18	二見～深江	11
2.		潮汐表	12
3.		メンバー	13
4.		巡航に必要な各用具	
4.1		航海用具	14
4.2		主計用具	15
4.3		救急箱	17
4.4		運用用具	18
4.5		個人の持ち物	19
5.		巡航に行くにあたっての注意事項等	
5.1		航行中の心得	20
5.2		停泊中の注意	20
6.		事故防止措置	
6.1		出艇中止	21
6.2		救命設備	21
6.3		夜航海時の措置	21
6.4		視界不良時の措置	21
6.5		事故が発生した場合の対応措置	22
7.		巡航知識	
7.1		帆走用語	23
7.2		アンカー作業	24
7.3		LOOK OUT の報告について	25
8.		連絡先等について	
8.1		メンバーの緊急連絡先	26

1. Navigation Schedule

1.1 8/9(月) 深江～林崎

TIME	OBJECT	Co.	Dist (mile)	Run(mile)
0330	深江			
		Var.	1.2	
0400	甲南埠頭沖			1.2
		Var.	5.3	
0645	メリケンパーク沖			6.5
		192	1.8	
0730	和田岬沖			8.1
		254	7.0	
1100	垂水沖			15.1
		298	1.8	
1200	山田磯			16.9
		088	1.5	
1300	明石港沖			18.4
		031	1.2	
1330	林崎港			19.6

1.2 8/10(火) 林崎～妻鹿

TIME	OBJECT	Co.	Dist (mile)	Run (mile)
0800	林崎港			
		var.	0.3	
0810	林港沖			0.3
		283	9.0	
1240	東播磨港沖			9.3
		324	7.2 mile	
1610	妻鹿漁港			16.5

1.3 8/11(水) 妻鹿～坂越

TIME	OBJECT	Co.	Dist (mile)	Run (mile)
0500	妻鹿漁港			
		182	2.2	
0610	姫路港沖			2.2
		273	12.4	
1220	釜崎			14.6
		003	1.4	
1300	坂越			16.

1.4 8/12(休) 坂越～牛窓

TIME	OBJECT	Co.	Dist (mile)	Run (mile)
0600	坂越			
		183	1.4	
0640	釜崎			1.4
		226	3.2	
0815	御崎			4.6
		243	13.0	
1445	牛窓瀬戸			17.6
		var.	0.3	
1500	牛窓			17.9

1.5 8/13(金) 牛窓～女木島

TIME	OBJECT	Co.	Dist (mile)	Run (mile)
0600	牛窓			
		Var.	1.1	
0630	黒島			1.1
		189	3.9	
0830	千振島沖			5.0
		203	4.5	
1045	アワラ島沖			9.5
		232	1.7	
1135	礼田崎沖			11.2
		189	4.0	
1335	女木港沖			15.2
		var.	0.6	
1350	女木港			15.8

※艇指揮が荒天等で女木港へ行くことが危険であると判断した場合は、目的地を変更し、土庄港へ向かう。

1.6 8/14(土)

女木島バカンス

1.7 8/15(日) 女木島～坂手

TIME	OBJECT	Co.	Dist (mile)	Run (mile)
0800	女木島			
		075	4.5	
0815	観音埼			4.5
		105	4.1	
1025	大串埼			8.6
		051	6.5	
1340	坂手港			15.1

1.8 8/16(月) 坂手～坊勢島

TIME	OBJECT	Co.	Dist (mile)	Run (mile)
0400	坂手港			
		Var.	0.6	
0420	児島			0.6
		139	1.3	
0500	大角鼻			1.9
		061	0.8	
0525	風ノ子島			2.7
		024	13.8	
1300	大ヤケ島			18.5
		Var.	2.3	
1415	坊勢島沖			18.8
		Var.	0.2	
1425	坊勢島			19.0

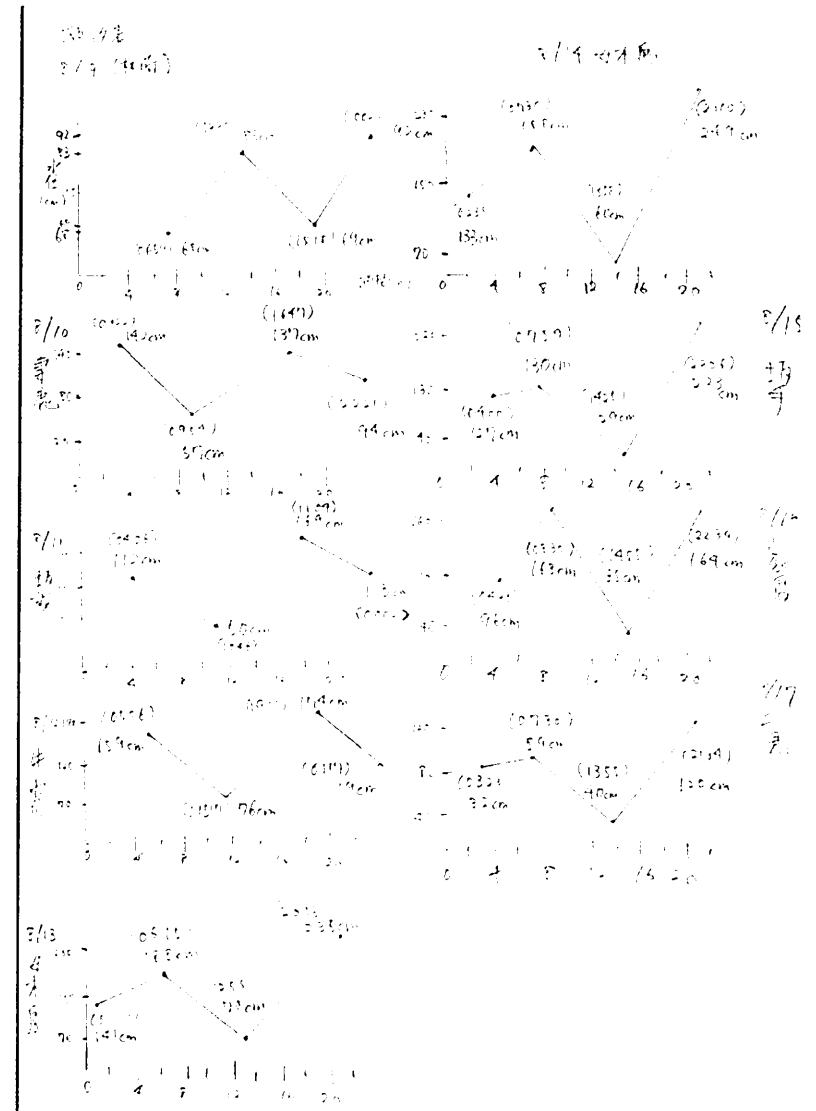
1.9 8/17(火) 坊勢島～二見

TIME	OBJECT	Co.	Dist (mile)	Run (mile)
0600	坊勢島			
		Var.	0.2	
0610	坊勢島沖			0.2
		358	2.2	
0700	上シツモ			2.4
		88	16.2	
1240	二見港沖			18.6
		Var.	2.0	
1340	二見港			20.6

1.10 8/18(水) 二見～深江

TIME	OBJECT	Co	Dist (mile)	Run (mile)
0600	二見港			
		var.	0.9	
0630	二見港沖			0.9
		122	4.5	
0840	林崎港沖			5.4
		095	3.0	
1010	山田磯			8.4
		118	1.8	
1110	垂水港沖			10.2
		074	7.0	
1440	和田岬沖			17.2
		012	1.6	
1530	メリケンパーク沖			18.8
		var.	5.3	
1810	甲南埠頭沖			24.1
		var.	1.2	
1840	深江			25.3

2. 潮汐表



□ □	27	毛布	26 枚	就寝用 20 枚、漕ぎ手用 6 枚
□ □	28	靴箱	2	サンダル入れ
□ □	29	シャックル	適当	大きさ大小、摩擦大小
□ □	30	ハンドレット	1	
□ □	31	デッキ、ハンドブラシ	4	
□ □	32	雑索	適当	太細長短
□ □	33	ウエス	適当	
□ □	34	ライフライン	2	艇周りに張る
□ □	35	ビッグフェンダー	2	
□ □	36	ストレッチャー	1	ルックアウト用
□ □	37	ひしゃく	1	
□ □	38	軍手	適当	
□ □	39	ガムテープ	1	
□ □	40	ブルーシート	2	
□ □	41	釣り竿	1	

4.5 個人の持ち物

チェック	No	品目	数量	備考
□ □	1	防寒着	1	特に夜の岸壁は肌寒いことがある
□ □	2	帽子	1	麦藁帽子がよい
□ □	3	雨具	1	
□ □	4	防水用ビニール袋	適当	四人の荷物を入れるため、余裕を必ず置くこと。
□ □	5	常備薬	適当	各自必要なもの
□ □	6	着替え	適当	
□ □	7	日焼け止め	1	
□ □	8	ミュージックプレイヤー	適当	心地よい音楽
□ □	9	お金	適当	
□ □	10	保険証	1	
□ □	11	洗面用具	1	
□ □	12	トーチ(懐中電灯)	1	予備電池
□ □	13	タオル	1	
□ □	14	水着	1	
□ □	15	サンダル	1	あまりかさばらないもの
□ □	16	ゴーグル	※	※ソーピング兼用

5. 巡航に行くにあたっての注意事項等

5.1 航行中の心得

①艇長の指示、号令をしっかり聞くこと

航行中会話などを楽しみ盛り上がることも大切なことではあるが、海上では常に危険と隣り合わせであることを大いに自覚し、メリハリを付けなければならない。

②適切な見張りを行うこと

航行中船首部分において二人一組で LOOK OUT (見張り) を双眼鏡を使用しながら行うこと。上級生と下級生で組むのが望ましい。周囲に船舶、ブイなどが見えたらその存在を知らせること。また積極的に行い、個人の勝手な判断で報告をしなかったということがないように。報告の仕方について詳しくは p20 7.3 LOOK OUT の報告についてを参照のこと。

③お互いに協力し合うこと

航行中の漕ぎ、艀装作業などにおいてお互いの協力は必要不可欠である。特にしんどい時こそ協調性を持つこと。また下級生はわからないことがあっても積極的に作業に手をだし、上級生は下級生が苦勞しているときは助けてあげる意欲を心がけること。

また以下のことはやってはいけない。

- i. 風浪の高い所では早めにリーフ (縮帆) し、無理をしない。
- ii. シートを固縛しない。これが原因で転覆した事例あり。突風を受けたらシート離すこと。
- iii. 磯波のあるところで艇を横にしない。

5.2 停泊中の注意

①時間厳守 5分前精神

作業に取り掛かる時間、自由時間など停泊中には様々な決められた時間があるが、必ず守ること。出港時間の遅れにつながりかねない

②どこかへ行く時は必ず艇指揮又は上回生に報告すること

停泊中の自由時間の決められた範囲でどこかへ行くことは構わないが、その際は必ず (艇長、主計長、運用長など) に報告すること。勝手な行動はしてはいけない

③停泊先の現地の人々などに迷惑をかけてはいけない

当たり前のことではあるが、我々が普通にやっていることでも現地の人々からすれば非常識に感じられるケースがある。巡航中ということもあり脳内の感覚がマヒしていることもあるかもしれないが、いったん冷静に物事見つめなおしやって良いことか悪いことかの判断をしなければならない。

6. 事故防止措置

6.1 出艇中止、避難基準

	条件
風	強風時、波頭が砕け白波がところどころに見え始めたら、近くの港（漁港、マリーナを含む）へ避難できるように入港を準備する。（風速 6m 以上、ビューフォート 4 以上）
波	波長 5m 以上のうねりがあり、かつ波高 1m 以上ある。
雨	大粒の雨が降っている。
雷	周囲に雷光、雷鳴が認められる。（半径 10km 以内）
視程	視程が 1000m 以下（霧）である。
台風	航海予定時間内に強風域（風速 10m 以上）に近づく可能性がある。
健康状態	極度に体調の悪い者は下艇入院させ、巡航は継続する。

※深江ボンド発航時の出艇許可は、艇長の出港準備完了報告を受けて顧問教員がこれを行う。

6.2 救命設備

- i. 救命浮環・・・右舷、左舷の一つずつ、すぐ投入できるように装備しておく。
- ii. ライフジャケット・・・常に着用しておく。
- iii. 落下傘付信号、信号紅炎

6.3 夜航海時の措置

- i. 航海灯（両色灯、船尾灯）の点灯
- ii. 探照灯、投光器、発電機の用意（航海灯の故障、バッテリー切れ時のバックアップ）
- iii. 見張り員の増員
- iv. 防寒着の着用

6.4 視界制限時の措置

6.3 i ~ iv に加え

- v. 2分を超えない間隔で有効な音響信号を行う。
- vi. 他船の音響信号、エンジン音に注意する。

6.6 事故発生時の対処

	クルー	艇長
転覆	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフジャケットを膨張させる ・艇に集まり、しがみつく ・互いに名前を呼び合う ・周囲を見回す、要救助者がいれば助ける ・他船に助けを求める ・落ち着いたら、ナイフ等を用いてステイのランニヤードを切断してマストを抜き、一斉に片舷からガンネルを持ち上げてカッターを起こす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・点呼、ケガ人の確認 ・通信機器、落下傘付信号、信号紅煙の確認
落水（物を落とす）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 落水者はライフジャケットを膨張させる 2. 落水者の方向を指さすなどして、見失わないようにする。夜航海時はトーチなどを使用する。 3. 救命浮環を投下する 4. ダウンセール、襪止め等で行き足を止める 5. 漕ぎにより落水者に接近、必要に応じて漕上げ、襪立てをする 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 落水者の舷へ転舵 2. 落水者確認 3. 風下側より落水者に接近
乗り揚げ	<ul style="list-style-type: none"> ・損傷、浸水の確認 ・破孔を生じた時は、反対舷に傾けて毛布を当てるなどして応急処置を取る ・水深のあるほうへ離脱 	<ul style="list-style-type: none"> ・周囲の底質、水深の確認
衝突	<ul style="list-style-type: none"> ・損傷、浸水の確認 ・破孔を生じた時は、反対舷に傾けて毛布を当てるなどして応急処置を取る ・ケガ人がいれば応急手当をする 	<ul style="list-style-type: none"> ・点呼、ケガ人の確認 ・相手船の損傷程度、船名、所有者、船長氏名と住所を確認、
傷病	<ul style="list-style-type: none"> ・応急手当をする ・最寄の避難港へ向かう 	<ul style="list-style-type: none"> ・電話で陸に電話をし、救援を請う
火災	<ul style="list-style-type: none"> ・セールを火元から遠ざける ・海水をかける、毛布に火が燃え移らないように注意し毛布をかける 	<ul style="list-style-type: none"> ・火元を風下にする

7. 巡航知識

7.1 帆走用語

i. タッキング・・・風を受けている舷側を、一方の側から他方へ変える操船のことを指す。目的地が風上側にあるときはこれを何度も繰り返す。

①タッキング用意
→Ans タッキング用意
艇長がラダーを切り始める

②ジブシートウェザーへ強れ
→ジブシバ 報告
ジブバックイン 報告

③ジブウェザー
→Ans
ジブシートを風上方向の舷側へ出す

④シフトオーバーザシート
→Ans
メインセール、ジブセールを反対舷へ切りかえる

ジブシバ・・・ジブシートがバタついている状態
ジブバックイン・・・ジブが風上に向きバタつかなかった状態

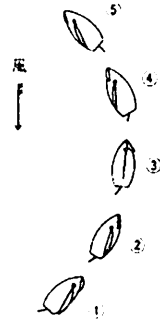


図 1-41

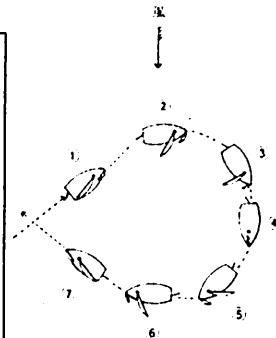
ii. ウェアリング・・・風と同じ方向に帆走しているときに、風の中を船尾が移動して風の向きを一方の舷側から他方の舷側へ変化させることである。

(1)ウェアリング用意
→Ans
舵を切っていく

(2)プレールインメンスルー
→Ans
メンスルーを絞る
ただし広い海域では行わなくてもよい

(3)シフトオーバーザシート
→Ans

(4)セットメンスルー
→Ans



iii. その他

- ・ウェザー・・・風上
- ・リー・・・風下

→バラスト ウェザー or リー と艇長が号令をかければ、クルーが動くことによりそちらの方向へバラストを移動する。本来バラストとは船体の重量を増したりバランスを取るための重しのことを指す。

・スターボードタック・・・左舷側から風を受けることにより帆を右舷側へ開いている状態。

・ポートタック・・・右舷側から風を受けることにより帆を左舷側へ開いている状態。

- ・Set sail (セット セイル) 帆をかける。
- ・Down sail (ダウン セイル) 帆を下ろす。
- ・Reef sail (リーフ セイル) 帆を縮める。
- ・Let go (レッコ) 離す、捨てる、投げる。
- ・Hold on (ホールド オン) 固定する。
- ・Slack (スラック) 緩める。
- ・Lea side (リーサイド) 風下側。
- ・Weather side (ウェザーサイド) 風上側。

7.2 アンカー (錨) 作業

i. Stand-by port or starb' d anchor (スタンバイ アンカー)

いつでもアンカーを投入できるよう準備する。

ii. Let go anchor (レッコ アンカー)

アンカーを投入する。

iii. Brought up anchor (プロウト アップ アンカー)

アンカーが海底を掻いた状態。

iv. Heave in cable (ヒープ イン ケーブル)

アンカーを引き寄せる。

v. Up and down anchor (アッペンダウン アンカー)

アンカーが海面から上がった状態。

vi. Foul anchor (ファウル アンカー)

アンカーが絡んだ状態。

vii. Clear anchor (クリアーアンカー)

きれいにアンカーが上がった状態